

認定中心市街地活性化基本計画の最終フォローアップに関する報告

平成30年5月
福井市（福井県）

全体総括

計画期間；平成25年4月～平成30年3月（5年）

1. 計画期間終了後の市街地の状況（概況）

本市は、前計画に引き続いて、第2期計画を策定し、「出会う」「暮らす」「遊ぶ」の3つの基本方針および「官民協働のまちなかにぎわいステージづくり」のテーマのもと、各種事業に取り組んできた。

長年の悲願であったハピリンの完成は、都市機能の集約を図るとともに、県都の玄関口としての様相を一新し、中心市街地の新たなランドマークとして活性化に大きく寄与している。ハピリン横に併設されている、屋根付き広場 ハピテラスでは、食の催事やスケートリンクなど、趣向を凝らしたイベントが毎週末開催され、多くの人々で賑わっている。

中心市街地の集客を牽引するハピリンの周辺では、飲食店などの新規出店が相次いでおり、特にA O S S Aから西武福井店までの通り（にぎわい軸）においては、人々の往来が増えていることから、計画に基づく各種事業の実施により、確実にまちの活力の増進が図られている。

前計画および第2期計画の進捗により、行政主体による一連のハード整備が概ね完了し、現在は、民間主体の市街地再開発事業や優良建築物等整備事業の大きな計画が動き出しているなど、民間投資の機運が高まっている。

一方で、空きテナントなどの遊休不動産についても、リノベーションにより活用することで、まちの価値を高めようとする動きが芽生えつつあることから、市民の中心市街地への期待感が大きくなっていることがうかがえる。

また、新たな取組みとして、公共空間を活用した賑わいづくりが活発になっており、平成30年4月には、都市再生推進法人であるまちづくり福井（株）と本市において、都市利便増進協定を締結した。

浜町界隈では、まちなか散策拠点として復元されたグリフィス記念館の周辺において、空きビルを再生した民間施設のオープンや、春まつりに合わせて、市民や商業者が中心となり食のイベントを開催するなど、市民活動の盛り上がりが見られる。

中心市街地活性化協議会の関係機関が官民連携して作り上げてきたこれらのまちづくりの機運を絶やさず、引き続き、連携を深め、実効性の高い事業を推進し、中心市街地の活性化を図っていくことが重要である。

さらに、ハピリンの賑わい効果を中心市街地全体に波及させるため、回遊性の向上に向けた取組みを継続的に実施していく必要がある。

【中心市街地の状況に関する基本的なデータ】

（中心市街地区域内）	24年度（計画期間開始前年度）	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度（計画最終年度）
人口	4,330	4,244	4,152	4,098	4,175	4,107
人口増減数	51	81	94	26	81	8
社会増減数	84	35	56	12	110	27
転入者数	315	346	239	248	346	321

（基準日 10月1日）

2. 計画した事業は予定どおり進捗・完了したか。また、中心市街地の活性化は図られたか(個別指標毎ではなく中心市街地の状況を総合的に判断)

【進捗・完了状況】

概ね順調に進捗・完了した

順調に進捗したとはいえない

【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった(計画策定時と変化なし)

活性化に至らなかった(計画策定時より悪化)

3. 進捗状況及び活性化状況の詳細とその理由(2.における選択肢の理由)

第2期計画に位置付けられた103事業のうち40事業が完了し、55事業が継続実施、8事業が未実施であり、概ね順調に事業が進捗・完了した。

主な事業として、福井駅周辺土地地区画整理事業により、福井駅西口広場が完成(平成28年3月)し、JR福井駅西口周辺の歩行者ネットワークが概ね整備された。これに併せ、福井鉄道福井駅やバスターミナルが完成し、交通結節機能の強化も図られた。さらに、市街地再開発事業が行われ、複合施設「ハピリン」(平成28年4月)がオープンしたことで賑わいが創出されている。

また、福井城址周辺においては、JR福井駅と福井城址を結ぶ県庁線の整備(平成29年6月)や福井城山里口御門の復元(平成30年3月)、さらに中央公園の再整備(平成30年供用開始)や景観に配慮した道路整備など、福井国体に向けて県内外から来訪者を迎える準備が着々と進められている。

これらの事業を着実に推進できた理由の一つに、北陸新幹線福井開業を中期の目標年次とした、県・市共同策定の「県都デザイン戦略」と協調しながら各種事業を実施してきたことが挙げられる。

ソフト事業においても、概ね計画通りに実施している。駅前電車通りにおいては、まちフェスをまちづくり福井(株)や商業者と連携して継続的に開催している。中心市街地一体で実施されているイルミネーションは、回遊性の向上に向けて、内容や設置場所を見直しながら行っており、冬期間の賑わい創出に寄与している。地元商店街により開催されている福井駅前感謝 day も集客効果の高いイベントの一つとして定着しつつある。

また、中心市街地活性化協議会との連携を強化するとともに、本市独自の推進体制として、福井市中心市街地活性化マネジメント会議を新たに設置し、施策効果の早期発現に向けてPDCAサイクルを実践してきたことは、大変意義のある取組みであった。

基本計画で定めた4つの指標のうち、「公共交通機関乗車数」と「観光案内所利用者数」は交通結節点の利便性が高まったことやハピリン横に観光案内所が移設されたことにより目標達成したが、「人口の社会増減数」は世帯構成員が減少傾向にあることや、「歩行者・自転車通行量」においてはイベントの集客によって通行量が左右されるなどの理由から目標達成に至らなかった。

全体としては、ハピリンの開業効果により、まちなかのイベント数が増加したことや空き店舗数が減少したこと、また中心部での地価の上昇、さらにはまちづくりへの民間の開発機運が高まっていることなどから、中心市街地の活性化は着実に図られているといえる。

4. 中心市街地活性化基本計画の取組に対する中心市街地活性化協議会の意見

【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

第2期の福井市中心市街地活性化基本計画は、福井駅周辺土地区画整理事業による福井駅西口広場の完成や、併せて完成した福井鉄道福井駅、バスターミナルにより福井駅の交通結節機能が強化され、4つの目標指標のうち「公共交通機関乗車数」、「観光案内所利用者数」は、目標を達成し、特に「観光案内所利用者数」は目標を大きく上回っている。福井駅周辺の交通ネットワークや観光案内体制は、整備が進んだと評価でき、5年後に北陸新幹線福井開業が迫る中、今後も継続して体制のさらなる充実、強化に向けた取り組みが求められる。

一方で、福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業の完了により、再開発ビルを中心に賑わいが創出されるなど、再開発ビルが開業した平成28年度は、目標指標が総じて上昇したが、平成29年度は、目標指標の「歩行者・自転車通行量」が低下し、「人口の社会増減数」も目標値を達成できないなど、進展したハード整備の効果については今後も楽観できない状況にある。

しかし現在、中心市街地では、複数の再開発などの計画や構想が始動し、第2期計画策定時と比較すると民間の開発意欲が多く創出され、活性化に向けた効果が大いに期待される。そこで福井市においては、これらの計画の実現や構想の具現化に向けてのリーダーシップや実施主体者同士のコーディネート機能を大いに発揮するとともに積極的な支援施策の展開を求める。

尚、当協議会を共同設立した福井商工会議所とまちづくり福井株式会社は、第2期計画期間終了後も継続して中心市街地活性化に取り組む所存である。福井市も今後の取り組みにおいては、変化が続く社会環境や中心市街地だけでなくその周辺地域の土地利用誘導などの現状を勘案し、第2期計画で達成できなかった目標指標の要因等を十分に分析把握しながら、より取り組みの効果が生まれるよう留意して実施することを望む。

5. 市民意識の変化

【活性化状況】

かなり活性化が図られた

若干の活性化が図られた

活性化に至らなかった（計画策定時と変化なし）

活性化に至らなかった（計画策定時より悪化）

【詳細を記載】

(1) まちなか好感度・素敵度調査

調査時期 平成 29 年 8 月～9 月

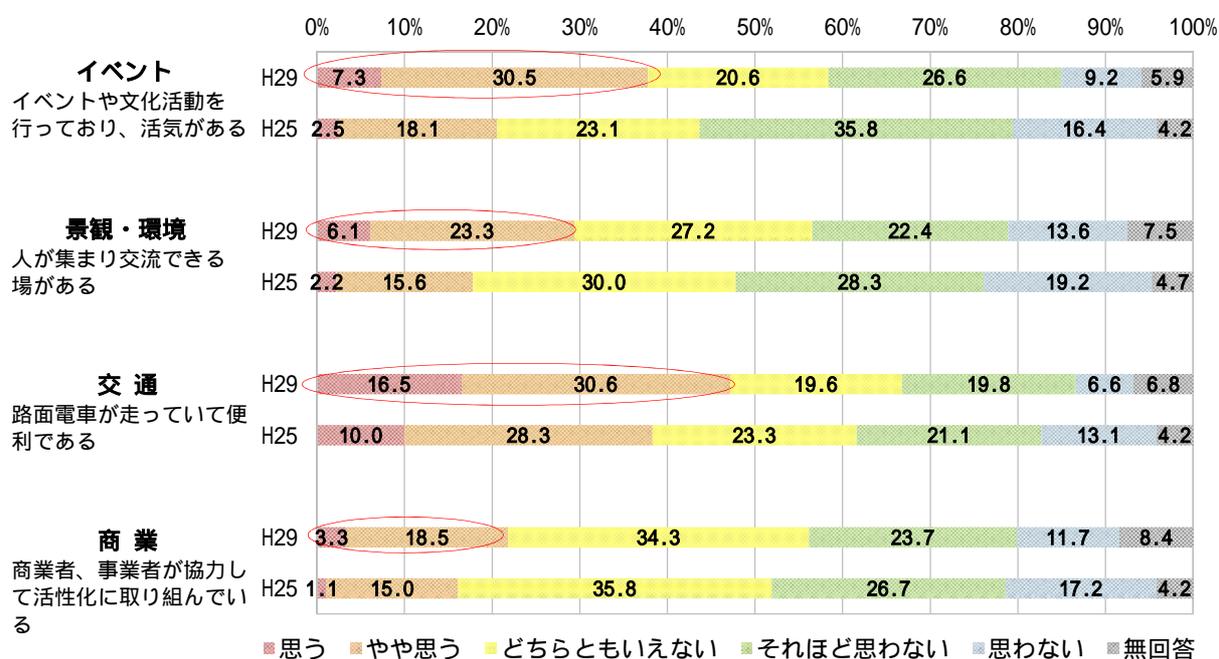
調査方法 郵送によるアンケート方式（無記名回答）

調査対象 無作為に抽出した市民 1,000 人

回答率 54.5%

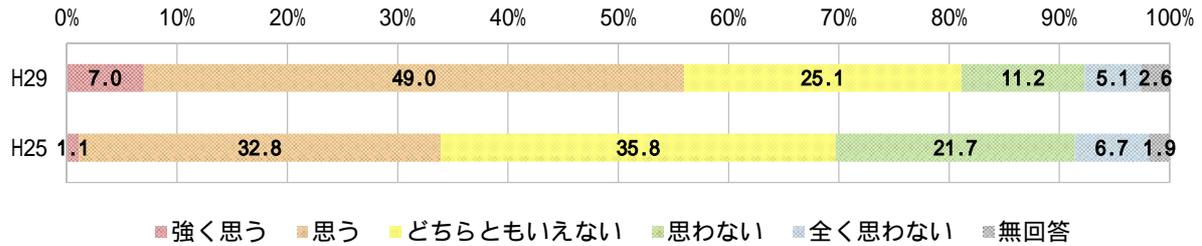
H25 年も同じ方法で調査

「イベント」、「景観・環境」、「交通」、「商業」に関する満足度



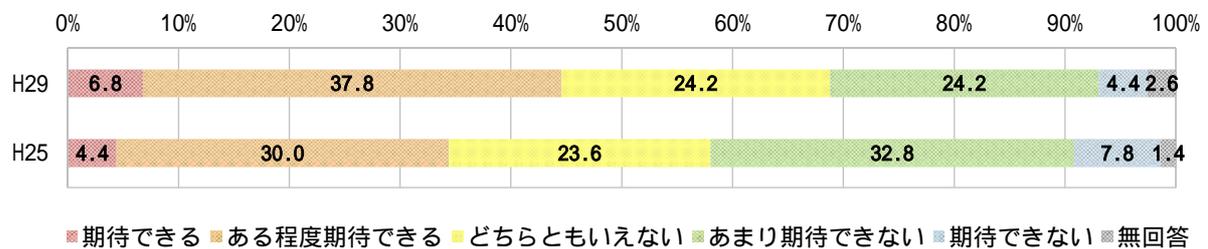
- ・各分野において、H25 年調査と比較して満足度が最も高かった項目は「イベントや文化活動を行っており、活気がある」、「人が集まり交流できる場がある」、「路面電車が走っていて便利である」、「商業者、事業者が協力して活性化に取り組んでいる」であった。
- ・これらは、ハピリン・ハピテラスの完成により、広場を活用したイベント等が増え、賑わいが創出されたことや、福井駅西口広場の整備により、交通結節機能が強化されたことが要因であると考えられ、商業者、交通事業者、まちづくり福井（株）、行政等の取組みがまちづくりに貢献しているといえる。

現在の中心市街地は5年前と比べて良くなっていると思うか



- ・ H29年調査では、「良くなっている」と強く思う、「良くなっている」と思うと回答した人は全体の約6割であった。
- ・ H25年調査（33.9%）と比較して22.1ポイント高かった。
- ・ 第2期計画当初から比べて市民の中心市街地に対するイメージが向上しているといえる。

将来的な中心市街地への期待値



- ・ H29年調査では、「期待できる」「ある程度期待できる」と回答した人は全体の約4割であった。
- ・ H25年調査（34.4%）と比較して10.2ポイント高かった。
- ・ ハピリンがオープンしたことや民間主体の市街地再開発事業が動き出していることなどから中心市街地への期待が高まっているといえる。

6. 今後の取組

計画に位置付けた4つの指標のうち「公共交通機関乗車数」と「観光案内所利用者数」の2つの指標において目標達成したことから、各種事業の取組みが公共交通機関の利用や交流人口の拡大に繋がっているといえる。

「まちなか好感度・素敵度調査」においても、「イベント」、「景観・環境」、「交通」、「商業」のそれぞれの分野の項目において市民の満足度が改善した。

しかしながら、「人口の社会増減数」と「歩行者・自転車通行量」については目標を達成できなかった。特に歩行者・自転車通行量においては、A O S S Aから西武福井店までの通り（にぎわい軸）の通行量が増加し、歩行者の動線が強化されているものの、中心市街地全体への波及には至っていないことから、回遊性の向上は中心市街地の喫緊の課題であり、引き続き取組みが必要である。

さらに、北陸新幹線福井開業という好機を捉え、民間主体の再開発や共同建替の支援を行い、商業、業務、居住、文化などの複合的な都市機能の充実を図ることで、人口の社会増を目指していく。具体的には、福井駅・城址周辺地区市街地総合再生計画を推進するほか、都市再生緊急整備地域の指定を受けることにより、県内外からの民間投資を呼び込み、中心市街地の活性化を図っていく。

また、本計画期間終了後も効果を継続していくことが重要であることから、目標の達成状況に関する評価指標に基づく評価を行い、PDCAサイクルを継続していく。

(参考)

各目標の達成状況

目標	目標指標	基準値	目標値	最新値		達成状況
				(数値)	(年月)	
出会う人を増やす	公共交通機関乗車数 (一日平均)	16,378 人/ 日 (H23)	17,150 人/ 日 (H29)	18,021 人/日	H30.3	A
出会う人を増やす	観光案内所利用者数	47,138 人/ 年 (H23)	54,000 人/ 年 (H29)	72,780 人/年	H30.3	A
暮らす人を増やす	人口の社会増減数	131 人増 (H20 ~ H24)	322 人増 (H25 ~ H29)	34 人増	H25 ~ H29	C
遊ぶ人を増やす	歩行者・自転車通行 量(休日・平日平均)	36,686 人/ 日 (H24)	48,500 人/ 日 (H29)	32,332 人/日	H29.7 H29.10	C

注) 達成状況欄 (注: 小文字の a、b、c は下線を引いて下さい)

A (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。さらに、最新の実績でも目標値を超えることができた。)

a (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。一方、最新の実績では目標値を超えることができた。)

B (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

b (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では基準値を超えることができたが、目標値には及ばず。)

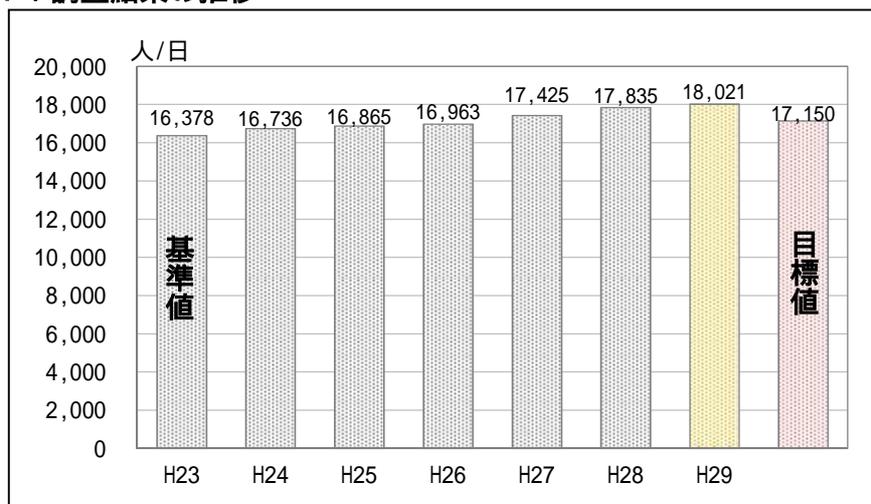
C (計画した事業は概ね予定どおり進捗・完了。一方、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

c (計画した事業は予定どおり進捗・完了しなかった。また、最新の実績では目標値および基準値にも及ばなかった。)

個別目標

「公共交通機関乗車数（一日平均）」 目標設定の考え方基本計画 P78～P84 参照

1. 調査結果の推移



年	（人/日）
H23	16,378 （基準年値）
H24	16,736
H25	16,865
H26	16,963
H27	17,425
H28	17,835
H29	18,021
H29	17,150 （目標値）

調査方法：乗車数の集計

調査月：毎年4月～3月

調査主体：各事業者

調査対象：中心市街地を発着点とする主要な公共交通機関（JR、えちぜん鉄道、福井鉄道、京福バス、すまいるバス）の中心市街地エリアにある全ての停留所及び駅での乗車数

2. 目標達成の状況【A】

目標指標である公共交通機関乗車数の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗・完了した。

福井駅周辺土地区画整理事業や福井鉄道軌道・電停等整備事業により、バスターミナルや福井鉄道福井駅が完成し、中心部の交通結節点の利便性が向上した。また、福井駅西口再開発事業により、ハピリンがオープンしたことで、さらに公共交通機関乗車数の増加が図られた。

平成26年3月の計画変更で新規追加した福井城山里口御門整備事業は平成30年3月に事業完了した。さらに、福井国体までには中央公園が供用開始されることから、これらの事業による効果が、今後、期待される。

公共交通機関乗車数は、平成29年度は18,021人/日であった。基準値である平成23年度（16,378人/日）と比べると、1,643人/日の増加となり、目標値である17,150人/日を上回る結果となった。

交通事業者をはじめとする関係機関との連携により、目標を達成することができた。このため、達成状況をAとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・福井駅西口中央地区都市機能集約事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業及び暮らし・にぎわい再生事業と一体となった効果促進事業）
事業開始・完了時期	H24年度～H27年度
事業概要	再開発ビルにおけるプラネタリウム（ドームシアター）や展示スペースの整備
目標値・最新値	目標値 34人/日 最新値 52人/日
達成状況	目標達成

達成した（出来なかった）理由	福井駅西口再開発事業と併せて、福井駅西口広場の整備を行うことで、交通結節機能が強化されたため。また、当初の見込みを上回る施設入込数であったため。
計画終了後の状況（事業効果）	セーレンプラネットの展示室やドームシアターでは、様々な企画が実施されており、新たな賑わいが創出されていることから、遊ぶ人を増やすことを目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	実施済

・福井駅西口中央地区市有施設等整備事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（福井中心市街地地区））
事業開始・完了時期	H24年度～H27年度
事業概要	再開発ビルにおけるボランティアセンター、観光関連施設、屋根付き広場などの整備
目標値・最新値	目標値 249人/日 最新値 192人/日
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	福井駅西口再開発事業と併せて、福井駅西口広場の整備を行うことで、交通結節機能が強化されたが、当初見込んでいた施設入込数を下回ったため。
計画終了後の状況（事業効果）	ハピテラスにおいては魅力的なイベントが多数開催され、新たな賑わいが創出されていることから、出会う人を増やすことを目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	実施済

・福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業（福井駅西口中央地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業）
事業開始・完了時期	H19年度～H27年度
事業概要	周辺地区との連携機能、駅前広場の補完機能、まちなか居住機能などの整備を市街地再開発事業で実施
目標値・最新値	目標値 202人/日 最新値 862人/日
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	福井駅西口再開発事業と併せて、福井駅西口広場の整備を行うことで、交通結節機能が強化されたため。また、当初の見込みを上回る施設入込数であったため。
計画終了後の状況（事業効果）	ハピリンと一体となった取組により、新たな賑わいが創出されていることや公共交通機関乗車数が増加していることから、中心市街地の活性化に大きく寄与している。
事業の今後について	実施済

・福井にぎわい交流拠点整備事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(西口中央地区))
事業開始・完了時期	H21年度～H27年度
事業概要	福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業と併せて、県都の玄関口にふさわしい広域交流機能として福井の魅力を発信・創造するとともに、人々が交流するための多目的ホールなどの整備を暮らし・にぎわい再生事業で実施
目標値・最新値	目標値 34人/日 最新値 14人/日
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかった)理由	福井駅西口再開発事業と併せて、福井駅西口広場の整備を行うことで、交通結節機能が強化されたが、当初見込んでいた施設入込数を下回ったため。
計画終了後の状況(事業効果)	ハピリンホールでは講演会のほか、能舞台を活用したイベント等が開催されていることから、出会う人や遊ぶ人を増やすことを目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	実施済

・その他の商業活性化事業などの取組による効果

1. JR福井駅南側自転車駐車場整備事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(福井中心市街地地区))
事業開始・完了時期	H22年度～H27年度
事業概要	JR福井駅の南側に自転車駐車場を整備
目標値・最新値	目標値 67人/日 最新値 23人/日 目標値、最新値は1と2の事業の合計
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかった)理由	福井駅西口再開発事業と併せて、自転車駐車場整備を行うことで、さらなる公共交通機関乗車数の増加を図ったが、整備台数が当初予定していた数を下回ったため。
計画終了後の状況(事業効果)	ハピリンに併設された自転車駐車場ということで、多くの方に利用されている。
事業の今後について	JR福井駅南側自転車駐車場整備事業は完了したが、北陸新幹線福井開業に向けて、自転車駐車場の整備を検討し、交通結節機能をさらに強化していく。

2. 中心市街地チャレンジ開業支援事業（まちづくり福井(株)）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業開始・完了時期	H22年度～H28年度
事業概要	空き店舗への出店者に対して開業経費等を補助する
目標値・最新値	目標値 67人/日 最新値 23人/日 目標値、最新値は1と2の事業の合計

達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	福井駅西口再開発事業と併せて、自転車駐車場整備を行うことで、さらなる公共交通機関乗車数の増加を図ったが、整備台数が当初予定していた数を下回ったため。
計画終了後の状況（事業効果）	ハピリンのオープンが好機となり、中心市街地チャレンジ開業支援事業終了後においても飲食店等の出店が相次ぐなど、商業の活性化と賑わい創出が図られている。
事業の今後について	実施済

交通結節機能の強化による増加

1．福井駅周辺土地区画整理事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（区画））
事業開始・完了時期	H3 年度～H30 年度
事業概要	東口都心環状線・福井駅北通り線・北の庄線など道路整備と西口広場、東口広場、自由通路などの整備
目標値・最新値	目標値 251 人/日 最新値 471 人/日 目標値、最新値は 1 と 2 の事業の合計
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	福井駅西口再開発事業と併せて、福井駅西口広場のバス乗降所や福井鉄道福井駅の整備等を行うことで、交通結節機能が強化されたため。
計画終了後の状況（事業効果）	交通結節点の利便性が高まったことにより、公共交通機関乗車数が増加したことから、出会う人を増やすことを目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	平成 30 年度で福井駅周辺土地区画整理事業が終了する予定であり、引き続き、関係機関と連携を図っていく。

2．福井鉄道軌道・電停等整備事業（福井鉄道（株）福井市、福井県）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市・地域交通戦略推進事業）
事業開始・完了時期	H25 年度～H30 年度
事業概要	駅前線の J R 福井駅延伸、市内停留所の改修、田原町駅の改修
目標値・最新値	目標値 251 人/日 最新値 471 人/日 目標値、最新値は 1 と 2 の事業の合計
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	福井駅西口再開発事業と併せて、福井駅西口広場のバス乗降所や福井鉄道福井駅の整備等を行うことで、交通結節機能が強化されたため。
計画終了後の状況（事業効果）	交通結節点の利便性が高まったことにより、公共交通機関乗車数が増加したことから、出会う人を増やすことを目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	福井鉄道駅前線延伸、田原町駅周辺整備は実施済 市役所前電停改良工事は平成 30 年 4 月末に完了

・ L R Vの導入による効果

低床車両（ L R V ）への更新（福井鉄道（株）、福井県）

支援措置名及び 支援期間	利用環境改善促進事業（ L R Tシステムの整備にかかる事業）
事業開始・完了 時期	H26 年度～H28 年度
事業概要	低床車両（ L R V ）の導入
目標値・最新値	目標値 34 人/日 最新値 39 人/日
達成状況	目標達成
達成した（出来 なかった）理由	利用しやすく、利便性の高い低床車両（ L R V ）を導入することにより、交通結節機能が強化されたため。
計画終了後の状 況（事業効果）	低床車両（ L R V ）の導入により、公共交通機関乗車数が増加していることから、出会う人を増やすことを目標としている中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後につ いて	実施済

4.今後について

今後も公共交通機関乗車数のさらなる増加を目指し、各種事業の取組みを継続する。

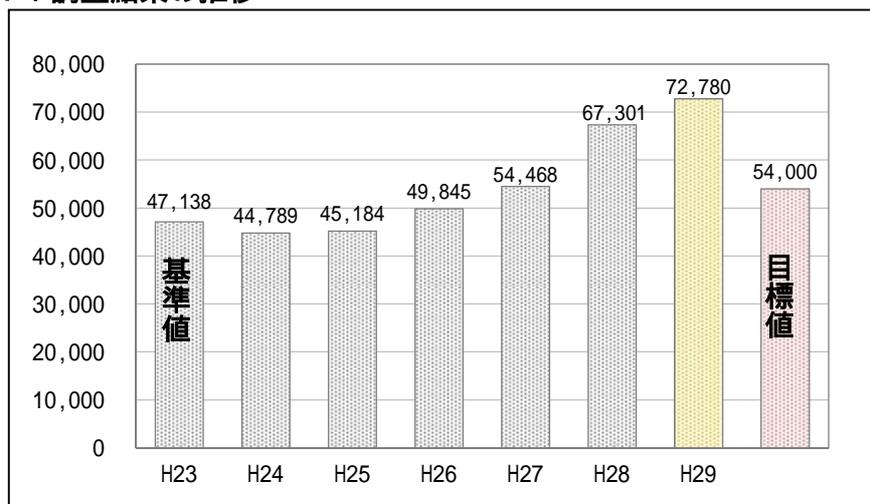
長期に渡り実施している福井駅周辺土地区画整理事業は平成 30 年度をもって終了する予定である。今後も福井県や関係機関と十分な協議・調整を行い、事業完了を目指す。

また、福井駅舎および福井駅東口拡張施設の整備など、高速交通ネットワークである北陸新幹線の早期開業に向け着実に事業を推進する。

個別目標

「観光案内所利用者数」 目標設定の考え方基本計画 P85 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/年)
H23	47,138 (基準年値)
H24	44,789
H25	45,184
H26	49,845
H27	54,468
H28	67,301
H29	72,780
H29	54,000 (目標値)

調査方法：観光案内所窓口で利用者数をカウント

調査月：毎年4月～3月

調査主体：福井市

調査対象：観光案内所における利用者

2. 目標達成の状況【A】

目標指標である観光案内所利用者数の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗・完了した。

福井駅西口再開発事業により交流人口の拡大が図られたことで、観光案内所利用者数が増加した。また、中心市街地のランドマークとなっているハピリン横に観光案内所が移設されたことで、さらに利用が高まったといえる。

壁面へのマーク掲示や駅構内の案内看板設置により視認性が高まっているほか、観光案内所において丁寧で質の高い案内や各種サービスが提供されていることも利用者の増加につながっていると考えられる。

平成26年3月の計画変更で新規追加した福井城山里口御門整備事業は平成30年3月に事業完了した。さらに、福井国体までには中央公園が供用開始されることから、これらの事業による効果が、今後、期待される。

観光案内所利用者数は、平成29年度は72,780人/年であった。基準値である平成23年度(47,138人/年)と比べると25,642人/年の増加となり、目標値である54,000人/年を上回る結果となった。

観光案内所をはじめ観光施設や関係機関との連携により、目標を達成することができた。このため、達成状況をAとした。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・福井駅西口中央地区市有施設等整備事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（福井中心市街地地区））
事業開始・完了時期	H24年度～H27年度
事業概要	再開発ビルにおけるボランティアセンター、観光関連施設、屋根付き広場などの整備
目標値・最新値	目標値 22,626人/年 最新値 25,642人/年

達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	福井駅西口再開発事業により、県都の玄関口にふさわしい「賑わい交流の拠点」が形成されたため。また、当初の見込みを上回る施設入込数であったため。
計画終了後の状況（事業効果）	観光案内所「ウェルカムセンター」において丁寧で質の高いサービスが提供されていることや、利用者数も増加していることから、出会う人を増やすことを目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	実施済

4. 今後について

今後も観光案内所利用者数のさらなる増加を目指し、各種事業の取組みを継続する。

多くの人々に市内の観光名所を周遊していただけるよう、足羽山やグリフィス記念館、養浩館庭園等を結ぶ、まちなか観光周遊バスの運行を継続する。

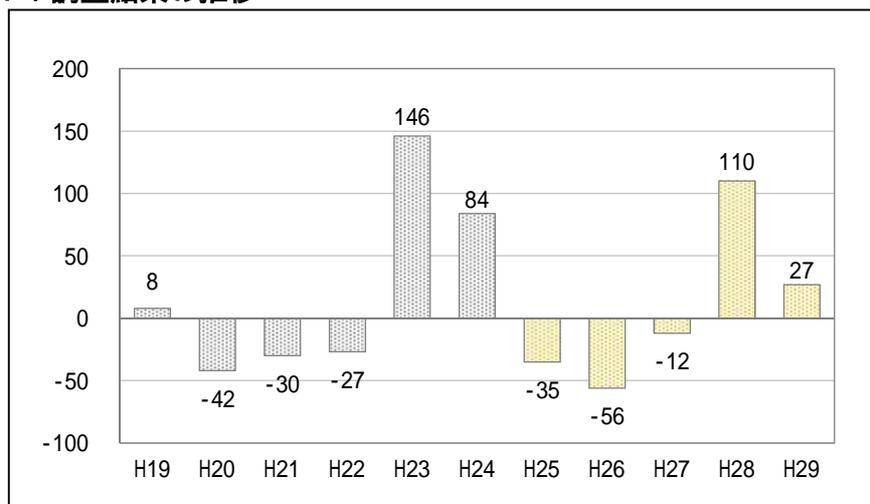
また、足羽山周辺の魅力をさらに高め、まちなかの新たな観光拠点とするため、ふれあい動物舎の整備や自然史博物館ビジターセンターの整備を着実に進めていく。グリフィス記念館では朗読会や音楽会の開催、養浩館庭園では御茶席、庭カフェの開設、ライトアップの実施など、年間を通して様々なイベントを開催し、施設の魅力および集客力の向上に努める。

平成30年度は、幕末明治福井150年を迎えるとともに、福井国体などの交流人口の拡大が見込まれる大きなイベントが控えているため、まちなかの魅力を積極的にPRし、観光誘客に繋げていく。

個別目標

「人口の社会増減数」 目標設定の考え方基本計画 P86 参照

1. 調査結果の推移



年	(人)
H20 ~ H24	131 (現状数値)
H25	35
H26	56
H27	12
H28	110
H29	27
H25 ~ H29	34 (実績値)
H25 ~ H29	322 (目標値)

調査方法：住民基本台帳（10月1日現在）より集計

調査月：毎年10月

調査主体：福井市

調査対象：中心市街地の年間社会増減数

2. 目標達成の状況【C】

目標指標である人口の社会増に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗・完了した。

平成25年度以降、社会減が続いていたが、福井駅西口再開発事業における分譲マンションの整備により、平成28年度は、第2期計画認定後初めて社会増に転じた。なお、平成29年度においても社会増であった。

しかしながら、目標である322人増には及ばず、34人増という結果となり、目標を達成できなかった。このため、達成状況をCとした。

平成27年3月の計画変更で新規追加した中央1丁目10番地区優良建築物等整備事業は計画期間終了後に完了する予定であり、今後、事業効果が発現する見込みである。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業（福井駅西口中央地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業）
事業開始・完了時期	H19年度～H27年度
事業概要	周辺地区との連携機能、駅前広場の補完機能、まちなか居住機能などの整備を市街地再開発事業で実施
目標値・最新値	目標値 205人 整備戸数 90戸 最新値 185人 整備戸数 88戸
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	当初予定していた整備戸数を下回ったため。また、中心市街地においては世帯あたりの人員が減少している傾向にあるため。
計画終了後の状況（事業効果）	共同住宅の整備後は、人口が社会増となったことから、定住促進が図られていることから、中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	実施済

・福井市まちなか住まい支援事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業）
事業開始・完了時期	H25 年度～
事業概要	まちなか地区における良質な住宅の供給支援
目標値・最新値	目標値 189 人 支援戸数 83 戸 最新値 63 人 支援戸数 30 戸
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	当初予定していた支援戸数を下回ったため。また、中心市街地においては世帯あたりの人員が減少している傾向にあるため。
計画終了後の状況（事業効果）	良質な住宅の供給を支援することで、定住促進が図られている。
事業の今後について	引き続き、事業を実施していくことで、さらなる効果が見込まれる。

4.今後について

人口の社会増については、計画していた事業は概ね完了したが、当初見込んでいた効果は得られなかった。引き続き、各種事業に取組み、人口の社会増を目指していく。

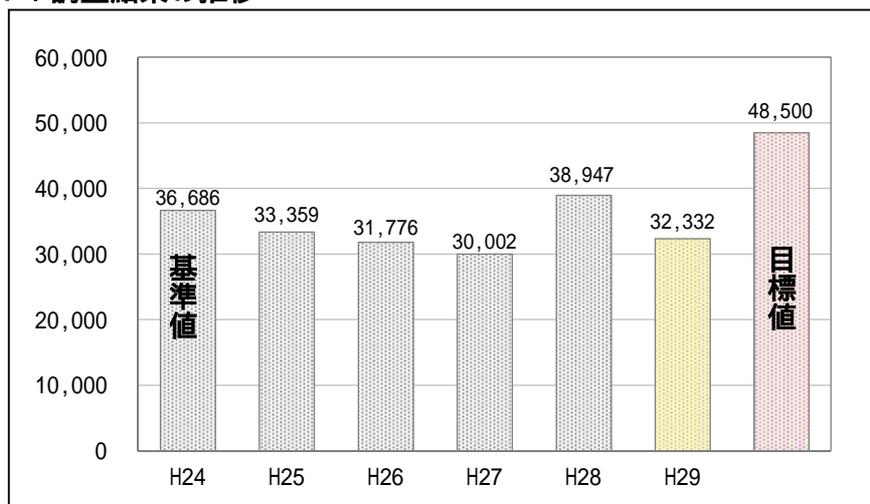
北陸新幹線福井開業を見据え、民間事業者が主体となったまちづくり計画が複数動き出している。こうした動きを後押しするために、平成 30 年 1 月に策定した福井駅・城址周辺地区市街地総合再生計画を推進し、民間再開発事業を支援する。また、さらなる民間投資を呼び込み、都市機能の集積を図るために、都市再生緊急整備地域の指定を目指し、これらのまちづくりが一層進む環境を整えていく。

また、世帯あたりの人員が減少している傾向にあることから、二世帯型戸建て住宅取得支援事業や若年夫婦・子育て世帯家賃補助事業を実施し、居住促進を図っていく。加えて、これらの事業を広く周知するために、関係団体へのパンフレット配布や講習会などにおける広報活動を積極的に行っていく。

個別目標

「歩行者・自転車通行量（休日・平日の平均）」 目標設定の考え方基本計画 P87～P91 参照

1. 調査結果の推移



年	(人/日)
H24	36,686 (基準年値)
H25	33,359
H26	31,776
H27	30,002
H28	38,947
H29	32,332
H29	48,500 (目標値)

調査方法：歩行者・自転車通行量を毎年7月と10月（休日・平日）に標準10地点において
9時～20時で計測

調査月：毎年7月と10月

調査主体：福井市

調査対象：中心市街地内の10地点（シンボルロード南側、ミスタードーナツ前通り、駅前電車通り北側及び南側、駅前電車通りハニー前、みなみ通りハピリン前、ガレリア元町、アップルロード西武横、北の庄通り、ハピリン前通路）における歩行者・自転車通行量

2. 目標達成の状況【C】

目標指標である歩行者・自転車通行量の増加に向けた各事業については、概ね予定どおり進捗・完了した。

歩行者・自転車通行量は、近年、減少傾向にあったが、福井駅西口再開発事業によりハピリンがオープンしたことで、平成28年度は通行量が増加に転じた。また、福井駅西口広場の整備により、中心部の交通結節点の利便性が向上したことも通行量の増加に繋がっていると考えられる。

ハピリンホールやハピテラスでは様々なイベントが開催されており、新たな賑わいが創出されているが、その効果が周辺に波及するまでには至っていない。このため、ハピリンで開催されるイベントと連動したイベントを行うなど、まちづくり福井（株）や商業者が牽引しながら、創意工夫のイベントを開催している。

歩行者・自転車通行量は、平成29年度は32,332人/日であった。基準値である平成24年度（36,686人/日）と比べると4,354人/日の減少となり、目標値である48,500人/日を下回る結果となった。このため、達成状況をCとした。

平成29年3月の計画変更で新規追加した、まちなかの食魅力向上推進事業やまちづくり活動連携促進事業等のソフト事業は今後も官民連携のもと継続する。

3. 目標達成に寄与する主要事業の計画終了後の状況（事業効果）

・福井駅西口中央地区都市機能集約事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業及び暮らし・にぎわい再生事業と一体となった効果促進事業）
事業開始・完了時期	H24年度～H27年度
事業概要	再開発ビルにおけるプラネタリウム（ドームシアター）や展示スペースの整備
目標値・最新値	目標値 441人/日 最新値 674人/日

達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	福井駅西口再開発事業により、県都の玄関口にふさわしい「賑わい交流の拠点」が形成されたため。また、当初の見込みを上回る施設入込数であったため。
計画終了後の状況（事業効果）	セーレンプラネットの展示室やドームシアターでは、様々な企画が実施されており、新たな賑わいが創出されていることから、遊ぶ人を増やすことを目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	実施済

・福井駅西口中央地区市有施設等整備事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市再生整備計画事業（福井中心市街地地区））
事業開始・完了時期	H24年度～H27年度
事業概要	再開発ビルにおけるボランティアセンター、観光関連施設、屋根付き広場などの整備
目標値・最新値	目標値 3,214人/日 最新値 2,482人/日
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	福井駅西口再開発事業により、県都の玄関口にふさわしい「賑わい交流の拠点」が形成されたが、当初見込んでいた施設入込数を下回ったため。
計画終了後の状況（事業効果）	ハピテラスにおいては魅力的なイベントが多数開催され、新たな賑わいが創出されていることから、出会う人を増やすことを目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	実施済

・福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業（福井駅西口中央地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業）
事業開始・完了時期	H19年度～H27年度
事業概要	周辺地区との連携機能、駅前広場の補完機能、まちなか居住機能などの整備を市街地再開発事業で実施
目標値・最新値	目標値 1,948人/日 最新値 10,720人/日
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	福井駅西口再開発事業により、県都の玄関口にふさわしい「賑わい交流の拠点」が形成されたため。また、当初の見込みを上回る施設入込数であったため。
計画終了後の状況（事業効果）	ハピリンと一体となった取組により、新たな賑わいが創出され、まちの活力の増進が図られていることから、中心市街地の活性化に大きく寄与している。
事業の今後について	実施済

・福井にぎわい交流拠点整備事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(暮らし・にぎわい再生事業(西口中央地区))
事業開始・完了時期	H21年度～H27年度
事業概要	福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業と併せて、県都の玄関口にふさわしい広域交流機能として福井の魅力を発信・創造するとともに、人々が交流するための多目的ホールなどの整備を暮らし・にぎわい再生事業で実施
目標値・最新値	目標値 441人/日 最新値 191人/日
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかった)理由	福井駅西口再開発事業により、県都の玄関口にふさわしい「賑わい交流の拠点」が形成されたが、当初見込んでいた施設入込数を下回ったため。
計画終了後の状況(事業効果)	ハピリンホールにおいては講演会のほか、能舞台を活用したイベント等が開催されていることから、出会う人や遊ぶ人を増やすことを目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	実施済

・JR福井駅南側自転車駐車場整備事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金(都市再生整備計画事業(福井中心市街地地区))
事業開始・完了時期	H22年度～H27年度
事業概要	JR福井駅の南側に自転車駐車場を整備
目標値・最新値	目標値 1,804人/日 最新値 0人/日
達成状況	目標未達成
達成した(出来なかった)理由	福井駅西口再開発事業と併せて、自転車駐車場整備を行うことで、放置自転車の無い快適な歩行空間の創出を図ったが、整備台数が当初予定していた数を下回ったため。
計画終了後の状況(事業効果)	ハピリンに併設された自転車駐車場ということで、多くの方に利用されている。
事業の今後について	JR福井駅南側自転車駐車場整備事業は完了したが、北陸新幹線福井開業に向けて、自転車駐車場の整備を検討し、交通結節機能をさらに強化していく。

・中心市街地チャレンジ開業支援事業（まちづくり福井(株)）

支援措置名及び支援期間	中心市街地活性化ソフト事業
事業開始・完了時期	H22年度～H28年度
事業概要	空き店舗への出店者に対して開業経費等を補助する
目標値・最新値	目標値 630人/日 最新値 640人/日
達成状況	目標達成

達成した（出来なかった）理由	本事業による出店件数が当初の想定を上回ったため。
計画終了後の状況（事業効果）	ハピリンのオープンが好機となり、中心市街地チャレンジ開業支援事業終了後においても飲食店等の出店が相次ぐなど、商業の活性化と賑わいの創出が図られている。
事業の今後について	実施済

・ 居住者増分

1．福井駅西口中央地区第一種市街地再開発事業（福井駅西口中央地区市街地再開発組合）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（市街地再開発事業）
事業開始・完了時期	H19年度～H27年度
事業概要	周辺地区との連携機能、駅前広場の補完機能、まちなか居住機能などの整備を市街地再開発事業で実施
目標値・最新値	目標値 1,383人/日 最新値 870人/日 目標値、最新値は1と2の事業の合計
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	整備戸数や支援戸数が当初の予定よりも下回ったことや、中心市街地においては世帯あたりの人員が減少している傾向にあるため。
計画終了後の状況（事業効果）	共同住宅の整備後は、人口の社会増となったことから、定住促進が図られていることから、中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	実施済

2．福井市まちなか住まい支援事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（地域住宅計画に基づく事業）
事業開始・完了時期	H25年度～
事業概要	まちなか地区における良質な住宅の供給支援
目標値・最新値	目標値 1,383人/日 最新値 870人/日 目標値、最新値は1と2の事業の合計
達成状況	目標未達成
達成した（出来なかった）理由	整備戸数や支援戸数が当初の予定よりも下回ったことや、中心市街地においては世帯あたりの人員が減少している傾向にあるため。
計画終了後の状況（事業効果）	良質な住宅の共有を支援することで、定住促進が図られている。
事業の今後について	引き続き、事業を実施していくことで、さらなる効果が見込まれる。

・交通結節機能の強化による来街者の増加

1．福井駅周辺土地区画整理事業（福井市）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（道路事業（区画））
事業開始・完了時期	H3年度～H30年度
事業概要	東口都心環状線・福井駅北通り線・北の庄線など道路整備と西口広場、東口広場、自由通路などの整備
目標値・最新値	目標値 1,079人/日 最新値 2,025人/日 目標値、最新値は1と2の事業の合計
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	福井駅西口再開発事業と併せて、福井駅西口広場のバス乗降所や福井鉄道福井駅の整備等を行うことで、交通結節機能の強化が図られたため。
計画終了後の状況（事業効果）	交通結節点の利便性が高まったことから、出会う人を増やすことを目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	平成30年度で福井駅周辺土地区画整理事業が終了する予定であり、引き続き、関係機関と連携を図っていく。

2．福井鉄道軌道・電停等整備事業（福井鉄道（株）福井市、福井県）

支援措置名及び支援期間	社会資本整備総合交付金（都市・地域交通戦略推進事業）
事業開始・完了時期	H25年度～H30年度
事業概要	駅前線のJR福井駅延伸、市内停留所の改修、田原町駅の改修
目標値・最新値	目標値 1,079人/日 最新値 2,025人/日 目標値、最新値は1と2の事業の合計
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	福井駅西口再開発事業と併せて、福井駅西口広場のバス乗降所や福井鉄道福井駅の整備等を行うことで、交通結節機能の強化が図られたため。
計画終了後の状況（事業効果）	交通結節点の利便性が高まったことから、出会う人を増やすことを目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	福井鉄道駅前線延伸、田原町駅周辺整備は実施済 市役所前電停改良工事は平成30年4月末に完了

・LRVの導入による来街者の増加

低床車両（LRV）への更新（福井鉄道（株）福井県）

支援措置名及び支援期間	利用環境改善促進事業（LRシステム整備にかかる事業）
事業開始・完了時期	H26年度～H28年度
事業概要	低床車両（LRV）の導入
目標値・最新値	目標値 146人/日 最新値 167人/日
達成状況	目標達成
達成した（出来なかった）理由	利用しやすく、利便性の高い低床車両（LRV）を導入することにより、交通結節機能の強化が図られたため。

計画終了後の状況（事業効果）	低床車両（LRV）の導入により、交通結節機能の改善と利便性が図られるなど、出会う人を増やすことを目標とする中心市街地の活性化に寄与している。
事業の今後について	実施済

4.今後について

歩行者・自転車通行量の増加については、計画していた事業は概ね完了したが、当初見込んでいた効果は得られなかった。引き続き、各種事業に取組み、歩行者・自転車通行量の増加を目指していく。

具体的には、中央1丁目10番地区や中央1丁目18番地区などの優良建築物等整備事業や駅前電車通り北地区における市街地再開発事業の支援を行い、日常の往来の増加を図る。

歩行者・自転車通行量は、ハピリンをはじめとする、駅周辺で開催されるイベントの集客によって大きく変動するため、より魅力的なイベントの開催について関係機関と検討しながら実施する。また、まちなかで取組むイベント情報については、中心市街地連携会議やまちづくり会議で共有し、各店舗で実施する販売促進につなげて、中心市街地における回遊性の向上を目指す。

さらに、ハピリンにおいて、福井国体開催に向けたプロモーション活動を積極的に実施し、その賑わいを福井市内全域に波及させる。

平成31年の中核市移行の際には、県内10市町と連携中枢都市圏の協定を締結することから、福井駅周辺において実施される地域資源を活用したイベント開催を促進し、中心市街地の魅力向上と交流人口の拡大を図る。